

令和7年度

いじめ防止及び情報モラル に係る主体的な取組事例



いじめ防止及び情報モラルに係る取組のポイント

- 1 児童生徒が計画段階から関わること
- 2 児童生徒が考え、議論する場を設定すること
- 3 取組のねらいを教職員と児童生徒との間で共有すること
- 4 保護者や地域と連携すること
- 5 各教育活動との関連を図り、意図的・計画的に実施すること
- 6 人権教育の視点から、自分や他の人の大切さを認めること



岩手県教育委員会

いじめ防止に係る児童生徒の主体的な取組事例

- 1 雫石町立西山小学校……………P3
「レッツ チャレンジ！ やさしく、仲良く、元気よく」
～児童会の主体的な取組で思いやりのあふれる学校に～
- 2 北上市立北上北中学校……………P4
「防災教育や地域とのつながり」を通じた「いじめ未然防止」
- 3 奥州市立江刺第一中学校……………P5
生徒の手による「いじめのない学校」を目指して
- 4 金ヶ崎町立西小学校……………P6
児童会執行部による「パワーアップ郵便」の取組
- 5 住田町立有住小学校……………P7
いじめや差別がなく協力し合える学校にしよう
～主体的な児童会活動を通して～
- 6 岩泉町立岩泉小学校……………P8
岩小キッズの合言葉「みんななかよし」の実現のために
- 7 軽米町立軽米小学校……………P9
児童が必要感をもって取り組む児童会活動を目指して

情報モラルに係る主体的な取組事例

- 1 雫石町立御明神小学校……………P10
PTAで取り組むメディアコントロール
- 2 紫波町立紫波第二中学校……………P11
生徒会全体で一つ一つのプロセスを踏んで進める
「メディアバランス」の取組
- 3 花巻市立笹間第一小学校……………P12
メディアを「制限」から「活用」へ 西南中学校区の実践
- 4 一関市立川崎中学校……………P13
生徒主体でのメディアコントロールデーの取組
- 5 釜石市立釜石中学校……………P14
釜中メディアコントロール宣言（生徒会主体）
- 6 宮古市立崎山小学校……………P15
三位一体（児童、保護者、学校）の情報モラル教育
- 7 洋野町立大野中学校……………P16
大野中メディア宣言
～集団の課題に向き合い、自分たちの力で生活をよりよくするための活動～

雲石町立西山小学校

「レッツ チャレンジ! やさしく、仲良く、元気よく」 ～児童会の主体的な取組で思いやりのあふれる学校に～

概要

本校では、児童会スローガンにもある「やさしく、仲良く、元気よく」を合言葉に、児童が思いやりのあふれる学校を目指して、様々な活動に取組んでいる。いじめ防止に係る児童の主体的な活動について紹介する。

1 児童会執行部による集会での呼びかけ

全校児童が「やさしく、仲良く、元気よく」なるよう、児童会執行部が相手を思いやる言葉遣いや言葉がけについて、場面毎に役割演技で呼びかける活動を行った。近年小学生でも増加しているネットいじめについても触れ、インターネット上で適切な書き込みについても理解を深めた。



児童会執行部による呼びかけ

2 「ふわふわことばの木を大きくしよう」の取組

10月に保健委員会が全校児童に、心が元気になったり楽しくなったりするふわふわことばを紹介して、「ふわふわことばの木を大きくしよう」と呼びかけた。各学年では、帰りの会で友達の言葉で心が元気になったり楽しくなったりした場面を紹介するなどし、児童の多くが目にする1階廊下に掲示してあるふわふわことばの木にふわふわことばを記入した葉型のシールを貼ることで、全校で取組を確認することができた。校報や保健だよりで取り上げたり、学習発表会や授業参観等で来校者が目にする機会を設けたりし、家庭や地域にも啓発した。



ふわふわことばの木

3 縦割り班活動(縦割り班遊び・なかよし給食等)の取組

学期に1回、縦割り班ごとに遊びたい遊びを決め、異学年で交流している。なかよし給食も学期に1回縦割り班ごとに行い、交流しながら楽しく食べている。上級生が下級生に教えながら活動するという縦割り班の機能を活かし、毎日の清掃も縦割り班で行うなど、多くの活動場面で、上級生は下級生を思いやり、楽しく遊んだり活動したりしている。



なかよし給食

成果

- ・「いじめはぜったいにだめ」ということを、児童自らが主体的に考え、取組むことができた。
- ・「いじめをしない」ということから、「思いやりのある行動をする」「人に優しくする」「みんなを大切にする」ということへ発展して考えることができるようになってきた。
- ・学校評価の保護者アンケートからも、「学校生活がとても充実していると思います。」「学校は楽しいと言っています。」「安心して通えています。」など、取組の成果が、児童の安全・安心の絆づくりと学校の魅力化につながっていることがうかがえる。



6年生への感謝のポスター

課題

- ・想いを継承し、活動を継続させていくこと。
- ・児童会のみならず、家庭や地域と連携・協働し、「思いやりのある行動をする」「人に優しくする」「みんなを大切にする」という意識を高めること。

北上市立北上北中学校

「防災教育や地域とのつながり」を通じた「いじめ未然防止」

概要

本校の学区の多くは北上川流域の平野部に位置しており、大雨による洪水にも度々見舞われている地域である。そのため防災教育にも力を入れており、今年度は県から復興教育スクール<内陸>の指定を受けている。地域との交流活動も盛んであり、地域との関わりも深い学区である。

このような学区の中で、中学生が主体的に地域活動に関わって活動し、他者を支援し、世代を超えて交流を重ねることを通じて、共助と公助の心を培い、支えられる人から支え合う人という意識が育まれている。このような心の育成への取組が、いじめの未然防止へとつながると確信している。

1 地域の消防団と連携した避難訓練

例年行っている避難訓練において、地域で活動している消防団と連携し実施した。避難の様子を見ていただき、避難時の心構えも含めての講評をいただいた。またその後、消防団の日々の活動についての紹介、実際の放水の様子を見学し、放水体験活動などを実施した。



放水体験の様子

2 市の危機管理課による復興防災出前講座

北上市の危機管理課に依頼して、復興防災出前講座を全校生徒対象に行った。当日は過去の身近な地域の災害の様子、避難時の中学生に意識してもらいたいこと、簡易テントの設営など、体験活動も交えながら講演をしていただいた。自助・共助・公助の大切さについて意識させることが出来た。



市民パレードへの参加

3 地域活動への中学生の参加

北上芸能まつりパレードへの参加や、今年度から実施した地域の防災訓練に参加した。加えて、地域の敬老会では吹奏楽部や野球部、生徒会執行部が参加し、演奏披露や交流活動を通して、お年寄りの方々と親交を深めた。地域の祭りでは着ぐるみボランティアに取り組むなど、様々な地域活動に積極的に参加し、地域のみなさんから大変好評をいただいている。



地域の敬老会の様子

成果

- ・消防団と連携した避難訓練では、地域の身近な方々が実際に消防団として活動している姿を直接目にするにより、地域防災に関わる事の素晴らしさを肌で感じる事が出来た。
- ・防災活動や地域の活動などに積極的に参加することで、地域と関わる事の大切さを感じ、助け合いの精神を育み、それが学校生活で互いに支え合うことの意識につながっている。
- ・地域活動に参加した生徒から「お年寄りの方々の喜んでいる表情から元気をもらった」「また参加したい」「新しい体験から自分を向上させることができた」などの声を聞くことができた。防災教育や地域活動を通して、「自分も支え合う輪の中の一員であり、自分だけではなく周りの人も大切にしたい」という意識の高まりを感じる事が出来た。

課題

- ・活動がその場だけのものにならないように、系統性のある取組を継続していく必要がある。
- ・地域と連携した活動を行うことは、いじめの未然防止につながる重要な取組と捉えている。だからこそ、学校体制の整備や教職員同士の協力体制をしっかりと構築していく必要がある。

奥州市立江刺第一中学校

生徒の手による「いじめのない学校」を目指して

概要

本校では、教育目標「切磋琢磨し、誠実に生きる人」を掲げ、いじめを生まない環境を築くとともに、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送ることができるよう教育活動を推進してきた。令和7年度の目指す学校像は「生徒の手による学校づくり」とし、「率先実行する生徒」の育成を目指して、心の教育や人権教育の充実を図る目的で、仲間を大切に、多様性を尊重する集団作りや、いじめ防止取り組みの推進を図ってきた。

1 「生徒の手によるいじめのない学校」を目指すための職員研修会

「いじめとは何か」、「いじめに気付かない生徒の心理や対応方法」について研修した。そのなかで、他者と自分を理解し、互いに尊重し合いながら気持ちを適切に表現することで、コミュニケーション力を育み、良い人間関係や学級集団を形成することがいじめ防止につながることを確認した。結果ではなく努力の過程や一生懸命さを認めることで、生徒一人ひとりに自己肯定感を持たせる方針を全職員で共有し、「生徒の手によるいじめのない学校づくり」がスタートした。

2 「いじめ」についての全校集会

4月15日、「誰もが安心して生活できるいじめのない学級・学校」を目指して、全校集会を行った。その集会では、「いじめへの適切な対応方法」や、「いじめを無くすためにはどうしたらよいか」、「SNSでのトラブルへの対応」など生徒に考えさせ、意見を共有した。さらに、学校全体として、①いじめは許さない②被害者を守る③どの先生にも相談できることを確認した。生徒の意見は、その後、生徒指導部通信として各家庭に配布し、周知した。



成果

- ・「生徒の手によるいじめのない学校」を目指して、年度はじめに職員研修会を実施することで、「良い人間関係がいじめを防ぐこと」、「いじめ防止ポイント」など全職員で共通確認を図り、4月スタートをきることができた。
- ・いじめ等の諸問題が起こる前に全校集会を実施することで、いじめを未然に防ぐにはどうしたらよいか、全校生徒で考えることができた。また、いじめ防止やいじめへの適切な対応について学ぶ機会となった。さらに、日常的に生活上の諸問題について、生徒同士が話し合う活動へと展開し、より広い視点で健全な学校生活について考える活動が定着した。

課題

- ・今後は、生徒会が中心となって、好ましい人間関係づくりを目指した取組をさらに充実させるとともに、定期的に振り返り、その後の行動を自ら決める場を設定することで、日常的にいじめを生まない環境や風土をつくり、すべての生徒が安心して、より生き生きとした学校生活を送れるようにする。

金ヶ崎町立西小学校

児童会執行部による「パワーアップ郵便」の取組

概要

本校は全校児童 41 名の小規模校である。児童は、学年を超えて交流できるよう、1年生から6年生までで構成された縦割り班「にこにこ班」を編成し、毎日の掃除や学校行事を協力して行っている。こうした活動を通して、異学年の児童同士が仲良く過ごし、思いやりの心を育むことを大切にしている。そのような中で、お互いのよさを認め合い、より仲良くなることを目的として、児童会執行部を中心に、「パワーアップ郵便」という企画を年2回実施した。

1 実施期間

1回目：令和7年 6月2日（月）～ 6月20日（水）

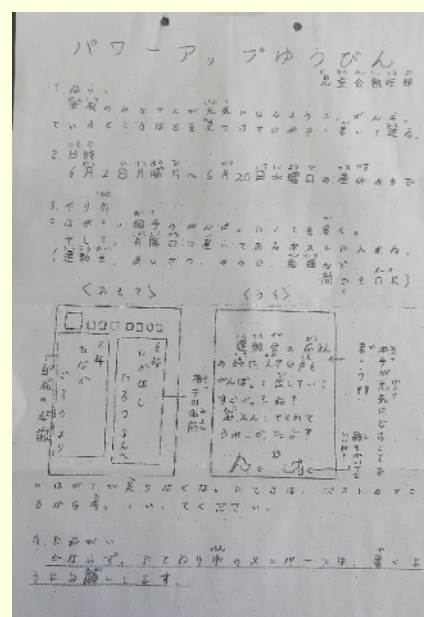
2回目：令和7年 11月6日（木）～ 11月21日（金）

2 ねらい

お互いのよさを認め合うために、友達のがんばっているところなどをはがきを書いて送り、全校児童がより仲良くなることを目指す。

3 具体的な取り組み内容

- ・はがきに相手のがんばっているところ、優しくしてもらってうれしかったことなどを書く。（行事、挨拶、掃除、勉強など何でもよい。）
- ・書いたはがきは昇降口に置いてあるポストに入れる。
- ・児童会執行部が各学級にはがきを届ける。
- ・にこにこ班のメンバーには必ずはがきを書く。（にこにこ班のみんながもっと仲良くなるため。）



成果

- ・この企画を通して、相手のよいところを考え、伝えることができた。はがきを書いた相手から「ありがとう」「絵が上手だね」などと言ってもらえ、より仲が深まった。
- ・自分のよいところ、がんばっていたところなどを書いてもらうことで友達から認められる機会を作ることができた。
- ・運動会后、学習発表会・マラソン大会後に設定したことで、様々ながんばりを見つけることができていた。

課題

- ・はがきを書く時間の確保が難しい。すきま時間や学級活動などの時間をあてているが、児童の負担にならないよう考えていく必要がある。
- ・はがきで書いた内容を日常の中で直接声掛けできるようになると、さらに関係性がよくなっていくと考える。今後、高学年を中心にそのような指導を進めていきたい。

住田町立有住小学校

いじめや差別がなく協力し合える学校にしよう
～主体的な児童会活動を通して～

概要

本校では、今年度の重点として、「思いやりの心を持ち、認め合い高め合う集団の育成」「誰に対しても相手に伝わる挨拶や返事ができる児童の育成」等を掲げている。また、いじめ防止基本方針では、いじめの未然防止のための取組の一つとして「児童の主体的な取組」を定めている。

そこで、児童会が中心となり、児童同士が気持ちのよいあいさつを交わしたり、認め、高め合ったりするための児童会活動を展開し、いじめ防止に資するべく次の取組を行った。

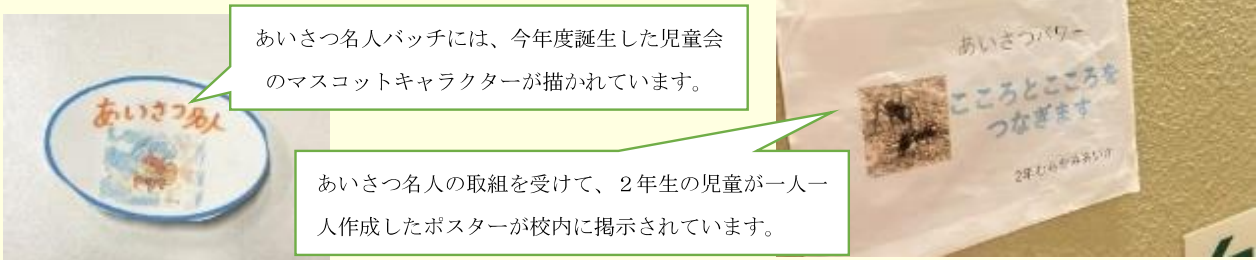
1 レインボーバタフライ

児童会執行部では、子どもたちが友達との日々の関わりの中で、うれしかったことやすごいなことなどについて所定の用紙に記入し、掲示する取組を年間を通して行った。また、記載内容を昼の放送で伝えるなどすることで、思いやりの心を持ち、認め合い高め合う集団の育成を目指した。



2 あいさつ名人

児童会執行部では、「明るい声」・「目を見て」・「相手より先に」などの観点であいさつが上手だと思う児童を全校から毎月選出し、あいさつ名人としてバッチを授与する取組を行った。昼の放送や全校集会の際に発表し表彰することで、校内のあいさつの活性化につなげるとともに、温かい人間関係の構築を目指した。



あいさつ名人バッチには、今年度誕生した児童会のマスコットキャラクターが描かれています。

あいさつ名人の取組を受けて、2年生の児童が一人一人作成したポスターが校内に掲示されています。

成果

- ・ 友達のよさを見つける思いやりの心とそれを認め合う心の育成に努めることができた。
- ・ あいさつ名人は、一度あいさつ名人になった子でも何度も名人に選ばれることができ、何枚でもバッチをもらえるようにするという子どもたちのアイディアにより、年間を通して、意欲的な取組となった。
- ・ 2年生によるあいさつに関するポスターの校内掲示や6年生によるハロウィン交流、健康委員会による集会等、縦割り班交流を中心とした主体的な取組が多く見られた。
- ・ 子どもたちの中で学年や性別関係なくみんなと温かな人間関係を築きたいという思いが芽生え、休み時間には全校で元気に遊ぶ姿が多く見られた。

課題

- ・ 温かな人間関係構築を目指すことはできたが、今後は、よりいじめ防止に特化した取組も考えていく必要がある。

岩泉町立岩泉小学校

岩小キッズの合言葉「みんななかよし」の実現のために

概要

本校では、岩小キッズの合言葉「みんななかよし」の実現を目指し、様々な活動に取り組んできた。主な取組は以下の通りである。

1 「ペップトーク」に関する取組

「ペップトーク」とは、相手のやる気や自信を引き出すための前向きな声かけである。児童会執行部が中心となってペップトークの実践方法を考え、全校で取組を進めている。また、ペップトークに関する標語を児童が作成し、校内や町内の公共施設等に掲示し、普及を図っている。



ペップ七夕集会の様子



クリスマスペップビンゴの掲示



ペップ標語の掲示

2 「クラス会議」に関する取組

「クラス会議」とは、子どもたち自身がクラスの問題を話し合い、解決策を考える会議のことである。昨年度からクラス会議の実践に取り組み、校内研修等を通して学びを深めてきた。今年度も、全校で発達段階に応じて内容を工夫しながら、継続して実践している。



クラス会議の様子

3 「なかよしアンケート」に関する取組

いじめに関するアンケートを年3回、児童及び保護者に実施し、結果を基に面談等を行い、いじめの早期発見と未然防止に努めている。また、アンケート用紙を学校ホームページからダウンロードできるようにし、随時提出が可能となるよう工夫した。

成果

- ・ペップトークの取組により、児童の他者を尊重しようとする意識が高まり、相手を思いやる言葉かけが増えた。その結果、いじめの未然防止につながり、いじめの認知件数の減少が見られた。
- ・クラス会議の継続的な実践により、児童自身が課題を話し合い、自ら解決しようとする姿が多く見られるようになった。
- ・定期的なアンケートの実施を通して児童の声を把握し、面談の内容から適切な対応を考え、丁寧に様子を見守ることができた。

課題

- ・ペップトークの理解は進んだものの、自分自身を励ます「セルフペップトーク」が十分に身についておらず、自己肯定感への働きかけが今後の課題である。
- ・アンケートによりいじめを把握することはできているが、日常の観察など、アンケート以外の手段による早期発見体制が十分とは言えず、今後は多面的な情報収集の充実が求められる。

軽米町立軽米小学校

児童が必要感をもって取り組む児童会活動を目指して

概要

本校児童会では活動のスローガンとして「軽小っ子宣言」を設定し、思いやりの心を育む児童会活動を展開している。児童が児童会活動に主体的に取り組むことを通して、他者を思いやる気持ちを育てることをねらいとしている。

1 月目標の取組について

月目標の取組は、事前に年間の月目標を計画せず、軽小っ子宣言をもとに「今、何が必要か」を児童会執行部が考え、各学年からの意見を集約して全校で取り組む内容を決めている。

《令和7年度の月目標（一部抜粋）》

軽小っ子宣言	月	目標	児童の思い・願い
相手の気持ちを考えてあいさつをしたり、優しい言葉を使ったりします。	4月	進んであいさつをしよう	新しく入った1年生が安心して生活できるようにあいさつを大切にしたい。
目標を立て、最後まで行事に取り組みます。	8・9月	体力づくりに進んで取り組もう	校内マラソン大会に向けて頑張っている。去年の業間マラソンの取組方が良いとは言えなかった。
一人ひとりがきまりを守り、安全に生活します。	7月	チャイム席を守ろう	特に休み時間後のチャイムが鳴っても席についていない人が多いように思う。
	12月	廊下歩行を見直そう	1学期の月目標の取組で一番できていない目標なので、もう一度取り組みたい。

2 代表委員会について

代表委員会では、遊具の使い方や放送の聞き方など、児童が日常生活の中で問題と感じていることを出し合い、解決策を話し合っている。問題の指摘にとどまらず、「具体的にどのようにすると解決につながるのか」「他の学級でも同じようなことが言えるのか」といった方向付けを行うことで自分事として話し合うことができるようになってきている。

3 委員会活動について

「軽小っ子宣言」をもとに、委員会として全校のためにできることを考えて活動をしている。

特に、今年度はボランティア委員会が「軽米小学校1000羽鶴プロジェクト」を立案し、地域の病院に千羽鶴を贈ることを目的に全校への呼びかけを行った。



成果

- ・月目標に柔軟性をもたせ「今、必要なこと」に取り組むことで、高学年を中心に「自分たちで学校をよりよくするために」という意識が育ってきている。
- ・自分たちの生活を見つめ直し、課題を見つけて解決しようとする姿が見られた。それに伴い、周りの人の良い所に目が向くようになり、思いやりの気持ちも育ってきている。

課題

- ・児童が思いやりと感謝の気持ちをもって生活することができるように、児童の自治意識を高める児童会活動の在り方をこれからも検討していく。

雫石町立御明神小学校

PTAで取り組むメディアコントロール

概要

昨年度の本校まなびフェストの1つを「家庭ではメディアにかかわる時間を減らす」とした。しかし、児童アンケートと保護者アンケートでは「あてはまる」との回答に大きな差があり（児童75%、保護者45%）、学校運営協議会でも具体性が乏しいという意見をいただいた。また、保護者アンケートでもタブレットやゲーム等の使用時間が長く、学校で規制してもらえないかという意見を複数いただいた。数年前まではノーメディアディを設けていた時期もあったようで、その取組を知っている保護者からの要望であった。

しかし、家庭でのメディアコントロールを学校が規制するのは学校への依存を増大させ、家庭教育の機能を低下させることにつながるのではないかと考え、PTA役員に相談し、以下の取組を実施した。

1 メディアコントロールの取組をPTAとして取り組む

前年度2月のPTA三役会で、校長から子どもたちのメディア利用について相談し、今年度のPTA活動で取り組むことを提案した。取組例を数例示し、4月のPTA役員会で「各家庭でルール・約束を決め実施する」ことを確認し、PTA総会で提案することとした。

2 各家庭でのルールづくりと学校の関わり

PTA総会で可決された後、各家庭で「メディア利用の約束・ルール」を決め、家庭用と学校用の用紙に約束・ルールを書いて提出いただいた。家庭用は家庭の中で見えるところに貼り、学校用は担任が保管し、6月や11月の児童面談の時に「メディアルールの約束・ルール」の確認と取組状況を子どもたちに尋ねた。以下は、今年度のアンケート結果である。

	児童	保護者
メディア利用の約束・ルールを覚えており、守っている	90%	74%



3 家庭だけの責任にしないメディアコントロールの取組

本校では、道徳や学級活動全体計画の中に情報モラル教育が位置付いている。文部科学省HP「情報モラル教育ポータルサイト」の動画教材を活用した授業や2月の授業参観では5・6年生とその保護者を対象に外部講師をお願いし、情報モラル学習を実施している。メディア利用の指導を学校でも行い、家庭との連携に努めている。

成果

- ・家庭内でメディア利用の約束・ルールを決めたくてもできなかった家庭にとっては、子どものメディア利用を制限するよい機会となり、アンケートでも感謝の声が複数あった。
- ・約束・ルールを忘れていた児童・家庭も想定していたが、どちらも全体の5%以下であった。

課題

- ・メディア利用の約束・ルールについては各家庭で利用時間等の差が大きい。今後、PTA主催のメディア利用の学習会等を検討していきたい。
- ・メディア利用については家庭だけの責任にはできない。また、外部講師に頼るだけでなく、自信を持って子どもたちに指導できる教員の育成を進めていく必要がある。

紫波町立紫波第二中学校

生徒会全体で一つ一つのプロセスを踏んで進める 「メディアバランス」の取組

概要

本校は、施設一体型の小中一貫校であり、義務教育9年間の一貫した教育課程のもとで、小・中それぞれの良さや役割を生かしながら、児童生徒の学びと育ちを伸ばすべく、教育活動を行っている。小中合同で行う行事や小中一貫教育の視点「4+3+2」の学年区分による学校づくりを行う中で、小学生と中学生の豊かな関わり合いをとおして、主体性・創造性を育み、児童生徒の自己実現を目指している。

【小中連携の取組「ノーメディアデー」から「メディアバランスデー」へ】

本校では、中学校のテスト期間中に小学校も一緒に、保護者の協力を得ながら家庭でのメディア利用の時間を減らす取組として「ノーメディアデー」期間として取り組んできていたが、取組後の保護者アンケートから、目指すべきはメディア利用ゼロではなく上手な付き合い方なのではないかとの声を受け、「ノーメディアデー」から「メディアバランスデー」と名称を変え、取組を進めている。

【きっかけは地域・保護者の思い…「子供たちの声が聞きたい】

学校運営協議会における熟議の中でも、「子供たちのメディアとの付き合い方」が喫緊の課題として挙げられた。委員からは、子供を主語にした教育活動を推し進める本校だからこそ、子供たちの声が聞きたいという意見が出され、この声は、児童総会や生徒総会の場で子供たちに届けられた。

【生徒会執行部主導のアンケートを実施…実態分析から具体的な取組へ】

生徒総会后、生徒会執行部が主体となり、メディア機器利用についての実態を把握するために1回目のアンケートを実施した。具体的に使用しているアプリや利用目的及び時間、利用する際に気を付けていることや失敗エピソード等、アンケート項目を生徒目線で生徒自身が作成したことにより、生徒の生の声を集約することができた。

1回目のアンケート結果を受けて、現状の分析や必要な取組について2回目のアンケートを実施した。今後は、生徒会全体でメディアとの上手な付き合い方について見定め直し、具体的な取組について考え、実行していく予定である。



生徒会メディアアンケート 3-2 (2025.12.10)

はじめに
・スマホなどを持っていない場合は、自分がスマホなどを持っていることをイメージして書かせてください。
・名前が書かないでください。自分の知っていることを真面目に書きましょう。書いた内容は全校で共有することがあります。

質問
1 あなたがスマホやタブレットやゲームをついついしてしまうのはなぜだと感じますか。当てはまるものを○に付けてください。複数選んでもOKです。
・楽しいから → 気がいれたいから → 暇つぶしとして → 学習に役にたつから
・飽きからなら以外にやる必要があまりない → 当たり前だから → ストレス解消
・その他()

2 あなたが使っている楽しいアプリ1位から5位まで教えてください。アプリの名前を書いてください。理由も教えてください。もしよければワースト1位(今まで使ったアプリの中で最下位になるアプリ)も書いてみてください。(スマホやタブレットのアプリを教えてください。持っていない場合はやってみたいものを書いてください。)

順位	アプリ名	理由(楽し・好き・便利)	順位	アプリ名	理由(楽し・好き・便利)
1位			4位		
2位			5位		
3位			ワースト1位		

3 2で書きたアプリを使う際に気を付けていることや失敗エピソードを1つ教えてください。

アプリ名	気を付けていることや失敗エピソード

5 あなたがどうしてアプリやゲームでネット上の友達とつながるの？

楽しい → 怖い → 楽しいor怖いどちらかに○をつけて失敗のとおりに選んでください。

どんなところが楽しいですか？

どんなところが怖いですか？

楽しいゆえに気を付けているのは何ですか？

どうやってから楽しもうですか？

6 スマホ・タブレット・ゲームを一番使う時間帯はいつですか？平日、休日ごとにとつづつ丸をつけてください。

◆平日◆
 ・朝5時 ~ 朝7時
 ・夕方5時 ~ 夜6時
 ・夜7時 ~ 夜9時
 ・夜10時 ~ 夜11時
 ・もっとも無い時間帯

◆休日(家庭の手配が自由)◆
 ・朝5時 ~ 朝7時
 ・朝7時 ~ 午前9時
 ・午前9時 ~ お昼12時
 ・お昼12時 ~ 午後3時
 ・午後3時 ~ 午後5時
 ・午後5時 ~ 午後7時
 ・午後7時 ~ 午後9時
 ・午後9時 ~ 午後12時
 ・深夜3時 ~ 朝5時

成果

- ・保護者や地域の声を大切にしながら、生徒会主体の活動へとつなぐことができた。
- ・生徒の生の声や実態を否定的に捉えずに、生徒会執行部が主体となった取組を通して、全校を挙げて生徒自身がメディア利用について考えることで、自己調整を図りながらタイムマネジメントする力を身に付ける取組にアプローチすることができた。
- ・教員による注意喚起を促す一方的な指導ではなく、生徒会全体で一つ一つプロセスを踏み、生徒一人一人が考えながら取り組むことで自分事とした取組にすることができた。

課題

- ・生徒会での取組を児童会や保護者、地域にも伝え、学園全体の現状として共有し、取り組んでいく。

花巻市立笹間第一小学校

メディアを「制限」から「活用」へ 西南中学校区の実践

概要

1 取組の目的

西南中学校区（花巻市立太田小学校、花巻市立笹間第一小学校、花巻市立西南中学校）では、児童・生徒が日常生活におけるメディアとの関わり方を見直し、自己管理能力の向上と望ましい生活習慣の確立を図ることを目的に「メディアコントロールウィーク」を同時期に実施した。

*「メディアコントロールウィーク」について、3校で以下の通り定義した。

- ・メディア（スマートフォン、ゲーム機、テレビなど）の使用時間や内容を意識的に見直す期間
- ・家族で話し合いながら、健全なメディアとの付き合い方を考え、約束を決め実践する期間

2 取組の内容

(1) 周知と意識共有

- ・昨年度まで行ってきた「NOメディアデー」から「メディアコントロールウィーク」へ移行するにあたり、教職員間で目的・意義を共有した。
- ・保護者および地域（西南地区教育振興協議会）へ事前周知を行い、学校・家庭・地域が連携して取り組む体制を整えた。

(2) 小中連携による推進

小中連携推進部会（研究主任担当の学力向上部会・養護教諭担当の養教部会）と連携し、以下の取組を各校で同時期に実施した。

- ・学力向上週間との連動 家庭学習強化週間とメディアコントロールウィークを同期間に設定し、振り返りシートを通してメディア利用の見直しと学習習慣の定着を促した。
- ・保健だよりでの啓発 各校の保健だよりの特集記事を掲載し、家庭への意識啓発を強化した。
- ・校内掲示・通知文書による意識向上 校内掲示や家庭向け文書を通じて、児童・生徒および保護者の意識向上を図った。

かていがくしゅう	できたよ						
家庭学習のふりかえり	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
1 子どもが主体的に、集中して学習したよ。							
2 読書、新聞紙、雑誌、図鑑、辞書などを使って、学習したよ。							
3 読書時間、テレビ時間、ゲーム時間、スマートフォン時間、学習時間など、学習時間30分以上、学習時間40分以上、学習時間60分以上。							
4 家族で話し合い、約束を守り、家族で楽しんだよ。							
5 家族で話し合い、約束を守り、家族で楽しんだよ。							
6 家族で話し合い、約束を守り、家族で楽しんだよ。							
7 家族で話し合い、約束を守り、家族で楽しんだよ。							
自分のふりかえり	お家の人のふりかえり						

学力向上部会作成の振り返りシート



養教部会による校内掲示

成果

- ・3校間の取組の差異が縮小：校区全体として実施期間や内容が統一的な取組となった。
- ・継続的な取組への発展：一過性の活動から、年間を通して意識する継続的な取組へと発展した。
- ・「適切な使い方」を考える姿勢の育成：メディアを一律に制限するのではなく、使い方を自ら考える視点を重視したことで、児童・生徒が主体的に改善に取り組む姿が見られた。
- ・小中同時実施による家庭内の相乗効果：兄弟姉妹が同時期に取り組むことで、家庭全体でメディア利用を見直す動きが生まれた。保護者からも肯定的な意見が多く寄せられた。

課題

- ・より主体的で効果的な取組へと発展させるための継続した学校間の情報共有と連携の質の向上
- ・家庭間の協力度やメディア環境の差への支援の在り方

一関市立川崎中学校

生徒主体でのメディアコントロールデーの取組

概要

令和7年度の生徒会は、スローガン「彩新～53人の色で創る主体性のある学校～」のもと、主体的な活動を進めた。その中で、スマートフォンやゲームなどのメディア使用時間に問題意識を持ち、生活習慣を見直すために、生徒主体で「メディアコントロールデー」を企画・実践した。

1 経過

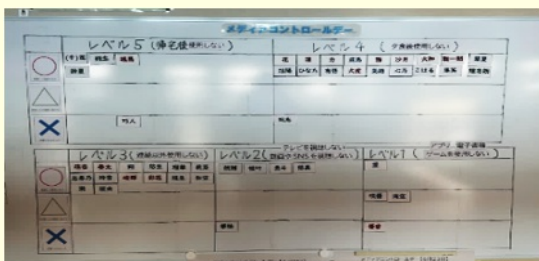
- 6月 応援・広報委員会が「ノーメディアデー」への参加を呼びかけた。その後アンケートで取り組み状況を集計。その結果をもとに、生徒会がメディア利用を減らす課題を提示。
- 7月 「ノーメディアデー」を「メディアコントロールデー」に改名し、メディア使用時間を自分で調整する活動に発展。
- 8月～11月 毎月『メディアコントロールデー』実施。11月の生徒総会にて活動報告。

2 活動の様子

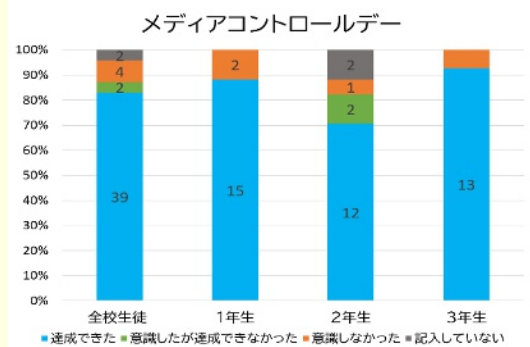
- ① 生徒会が、生成AIを使って、ノーメディアへの意識を高めるためのチラシを作成した。



- ② 生徒は、登校時に昇降口のホワイトボードへ自分のメディアコントロールデーの取り組み状況を記入。生徒同士が取り組みを確認し合うことで、互いに意識を高め、励まし合える環境をつくった。



- ③ 生徒総会でメディアコントロールデーの活動について報告し、生徒会が作成したパワーポイント資料を用いて、達成状況を全校生徒で共有した。その結果、多くの生徒がゲームや動画の利用を控える工夫をしていることが明らかになった。今後は、達成できなかった理由を分析し、より取り組みやすい工夫や啓発活動を進めていく方針を確認した。



成果

- ・メディアの使用時間を意識し、82%の生徒がメディアを使用しない時間を設けて生活することができた。
- ・生徒一人ひとりのメディア使用時間をコントロールする意識が高まった。
- ・校務支援システムの連絡ツールを使用し、生徒会の活動として保護者にも呼びかけを行ったことで、「メディアコントロールデー」に対する保護者の意識も向上した。

課題

- ・「メディアコントロールデー」の達成目標のレベルを、2学期以降徐々に上げたところ、達成率が下がってしまった。
- ・学習課題がデジタル化されているため、完全にメディアを排除するのは難しい側面もある。

釜石市立釜石中学校

釜中メディアコントロール宣言（生徒会主体）

概要

1 「メディアコントロール宣言」の作成理由

釜石中学校では10年ほど前から「釜中インターネット利用心得」というルールを設け、生徒手帳に載せて意識させるなど学校としての取り組みを行っていた。しかし、近年のスマホやタブレットをはじめとする通信機器の進化と広がりを目覚ましく、「自分専用の端末を持っている」というアンケートには、ほぼ全員が「持っている」と回答をする状況であった。そこで、スマホやタブレットの使用を制限するようなルールではなく、「自分たちでメディアの使用をコントロールできるようになろう！」という目的で、生徒会が主体となって「釜中メディアコントロール宣言」の作成を開始した。

2 内容を決定するまでの流れ

まず、1学期にメディアについての新しい宣言を作るために生徒会で話し合い、現状のインターネットの利用状況がどうなっているか、全校にアンケートを取ることにした。次に、そのアンケート結果を受けて、執行部で内容を話し合い、メディアコントロール宣言を作成する流れになった。

① Forms を活用した全校アンケート
→「他人の悪口や個人情報を発信しない」という項目は肯定回答が約96%だったが、「夜9時以降はSNSや情報機器を使わない」という項目は肯定回答が約49%と低かった。このことから、悪口や個人情報発信などに使っている生徒は少ないものの、深夜まで使用している生徒が多いということが分かった。

② 釜中メディアコントロール宣言の5つの項目

→その後、生徒会執行部の話し合いにより項目を決定した。内容に関しては上記の通りである。

③ このメディアコントロール宣言を受け、各学級での話し合いについての発表

→7月の学期末学級会で釜中メディアコントロール宣言について学級で頑張りたいことを話し合い、1学期まとめ集会で発表の場を設けた。ただ、宣言をするだけでなく、話し合いをすることによって、生徒に自分事として捉えて欲しいとのねらいがあった。

④ 生徒昇降口に掲示

→宣言と各学級の話し合いの内容を生徒の目につく場所に掲示し、意識付けを行った。

釜中メディアコントロール宣言 ～5つの宣言～

① 家族とメディアについてのルールを決めよう

→使用時間、使用場所、アプリのダウンロードなど家族でルールを決めましょう。そのルールがあなた自身と周りの人々を守ります。

② 適切な使用時間を守り、夜9時以降は使用しない

→夜中までメディアを使用しているとネット依存になるリスクが高まります。また、夜9時以降誰かに連絡をすると相手に迷惑にもなります。夜9時以降の使用はしません。

③ 個人情報を大切にす

→名前、顔写真、電話番号、住所、そして今いる場所が分かるような写真や内容などをSNSに載せてはいけません。あなただけでなく、そばにいる大切な人も危険にさらされてしまうかもしれません。

④ 誹謗中傷は絶対にしない

→人を傷つけたり、困らせたりする内容は絶対に書き込みません。写真がまわってきて拡散する行為も絶対にしてはいけません。犯罪になる恐れがあります。

⑤ メディア以外にも楽しいことを見つけ、実行しよう

→みなさんが今夢中になっていることはなんですか？部活、勉強、遊び、習い事、クラブ、などなど、、、自分が夢中になっていることにどんどん挑戦していきましょう。時間をもてあまし、暇だからとメディアを使っているといつまでもやめられなくなります。今、あなたが夢中になっていることに夢中になりましょう。

成果

- ・メディアの使い方を生徒会の取り組みにすることで、生徒の自治的な活動に繋げることができた。生徒のメディアの使い方の意識が向上したと考えられる。
- ・各学級でメディアについて話し合うことで、生徒一人ひとりが自分事として捉えることができたと考えられる。また、長期休みの度に宣言を確認することで、意識継続を図ることができた。

課題

- ・メディアについて、最終的には生徒個々の使い方と、家庭の管理によるものになってしまう。宣言を通して意識を高めても、家庭で実際にどのようなルールで使っているかは分からない。家庭の方も巻き込みながら皆で取り組むような活動になれば、更に良くなると考える。

宮古市立崎山小学校



三位一体（児童、保護者、学校）の情報モラル教育

概要

【Check!】実際の指導に使用した資料はこちら↑

本学区では、情報端末（スマートフォン、ゲーム等）の所持率上昇と、インターネットや SNS 利用に関わる問題発生に伴い、その改善に取り組んでいる。

1 小・中連携による9年間の情報モラル教育

小・中交流会の実施
「ブロックスタンダード」を定期的に見直し、実態に合わせて改善を図る。

健康や学習の観点から
児童生徒の「管理、制限」を「自己指導力の育成」に転換する。

情報モラルは日常モラル
毎日の生活の中で大切にしたい、「気持ち」「きまり」を考える継続的指導。

2 実践事例

①授業実践

各学年、学級活動の年間計画の中にメディアの使い方や情報モラルについて入れて計画的に指導している。

②全校集会

長期休業前に担当から全体指導を行い、改めて意識を高める。

③通信の発行

家庭向け資料を作成し、学校での指導方針を周知する。

④児童の実践

授業や休み前の指導を受けて、生活改善を図る。

⑤アンケート

情報モラルアンケートと、まなびフェストでの継続的な調査を実施。

3 参考資料

(生徒指導通信 Vol. 2)

メディアとの付き合い方を見直しましょう

崎山小学校の児童のほとんどが、インターネットを介して「Youtube」や「Instagram」などのメディアを利用しているようです。最近の小学生は「中国ダンス」なるものにハマっていたり、ショート動画で知り得た言葉を巧みに使いこなして会話を盛り上げたりしているようです。

SNSに疎い生徒指導担当は、子どもたちの話についていけないこともあります。保護者の皆様は、我が子がどんなサイトやアプリを利用しているか把握していますか？

夏休みは、メディアに触れる時間が増えるはずですので、これまで聞いたことがない言葉を使っていたら、どこで得た情報か、どんな意味なのか聞いてみて、子ども自身がその言葉の利用について考える時間を作っていただきたいです。

その他にもシューティングゲーム中の暴言、いわゆる「煽り」にも気を付けてみていただければ幸いです。今後子どもたちの健全育成へのご協力をお願いいたします。

(情報モラル授業での活用 第5学年)



成果

- 情報モラル教育を継続していることで、SNS やインターネットを介したゲームでの問題発生率は減少傾向にある。
- 通信発行の効果は、明確に表れてはいないが、保護者面談等でメディア利用時間に関心を示している家庭は増加傾向にある。

課題

- 生活改善について考える時間を設けると、知識的な理解ができている児童は多くなってきている印象を受ける。しかし、家庭によって実際の生活ではほとんど効果が出ていない場合もある。
- まなびフェストでの振り返りでは、メディア利用についての肯定回答が全校児童で77%となっており、学校としての目標数値(80%)を達成するに至らなかった。
- 健康や学習の観点から、何事も取り組みの効果を上げるには、児童生徒が自分事として課題をとらえ改善しようとする「内発的動機付け」が不可欠であると考えられる。

洋野町立大野中学校

大野中メディア宣言

～集団の課題に向き合い、自分たちの力で生活をよりよくするための活動～

概要

本校は広い学区から生徒が集まっていることもあり、下校後や休日等での生徒のつながりがSNS上である生徒が多い。令和5年度、SNS上での生徒間トラブルが多発し、大きな問題となった。「より良い学校にしたい」「SNSで傷つく人を無くしたい」という思いのもと、当時の生徒会執行部が中心となって、問題解決のための活動を開始することとなった。

1 生徒会から全校生徒へ

生徒会執行部より、全校生徒へ提起を行い、活動の趣旨と流れ、目的を全校生徒に共有した。『大野中のほとんどの生徒がSNSを利用しています。しかし、そこでトラブルやいじめにつながる出来事が、この半年だけで全学年通じて、数えきれないほどありました。自分で使うと決めたSNSツール、しかし、それを誤った方法で使う人がいるのであれば、見過ごすことはできません。自分たちの生活は自分たちで良くしていく、自分たちの足りないところにもしっかりと目を向けて本気で考えましょう。(抜粋)』 当時の生徒会執行部が、立ち上がり訴えた。

2 学級審議、生徒総会での承認の議決

全校生徒にアンケートを実施し、結果とアンケートに書かれた生徒の言葉を、生徒朝会で全校に伝えた。その後、各学級のメディア宣言の作成を、学級執行部が中心となって行った。各学級での審議や宣言をもとに、拡大執行部による『大野中メディア宣言』の作成に取り組んだ。後期生徒総会の場合、ただ承認を得るだけではなく、全校生徒で「本当に守っていけるのかどうか」議論を行った。様々な立場からの意見が上がり、その議論は1時間近くも続いた。最終的に過半数の承認を得て議決されたが、「個人の心がけだけで現状が変わることはないから、これ以上の方法を考えるべき」という理由で承認しない生徒も少数いた。



3 「大野中メディア宣言」

- 1 相手の気持ちを考えて使います
- 2 個人情報「載せない・書かない・教えない」をみんなで守ります
- 3 メディアに支配されず、良い所・悪い所を理解して活用することを心がけます
- 4 自分の気持ちは『相手との対話』で伝えることを大切にします

この宣言は、毎年生徒総会で、その意義や現状、展望について、全校生徒で確認している。

成果

- ・生徒会執行部からの提案、アンケート等を通して、生徒の声をもとに個人・学級で考えることで、自分たちの言葉を積み上げ、決めた宣言に大きな価値が見いだせた。
- ・メディア宣言の話し合いをきっかけに、画面に送る文字ではなく、相手を見て伝える言葉を意識して生活する大切さに気付いた生徒が増えた。

課題

- ・メディア宣言制定時に在籍していた生徒が卒業することで、経緯やそれに込められた思いを知る生徒がいなくなり、宣言が形骸化して守ろうとする意識が低下することが懸念される。全校での再確認の場を大切にしていきたい。